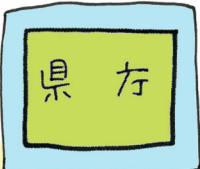


世界市場を席巻した「絨織王国・福井」を歩く

歩くさ
ふくい
Stage 8

絨織取引の中心街。代表的な系商・絨織商が集中的に店をかまえたエリア

人絹王国と言われた福井のシンボル。昭和三十二年竣工。会館内にはレストランもあり、当時はハイカラなイメージをもっていた。



西野商会跡
『人絹王国』と呼ばれた西野藤助の店

人絹会館跡地

旧絨織物組合跡地

絨織十カビル
・糸田井順子胸像

響のホール

JR 福井馬車

足羽川

糸田井順子石碑
百坂



明治9年に県費研修生として、京都で「バタタン機」による手結織り技術を習得した福井人第1号。石研金賛し、多くの人の教え、絨織系王国福井の礎を築いた偉大な工芸者。

福井と絨織

時代はさかのぼり... 旧藩士の由利公正が欧州から絹織物多数種を持ち帰り、福井の有志に見せて新しい絹織物の考案を依頼したことから、技術研究が始まりました。福井は一年中昼夜の軒差が少なく、絹織物製織には最高の条件。明治20年頃には二重結織技術の基礎を確立し、福井県産絹織物の輸出货量は、大正初年から半ばにかけて日本の60%を占めるに至り、名実共に世界一の生産地となりました。

福井商工会議所

セレンピスコテックス
・輸出絨織物検査所跡

単独前は絨織王国福井を支えた品質検査所。現在は最新の絨織技術が体験できる。

バタタン機

足羽山